

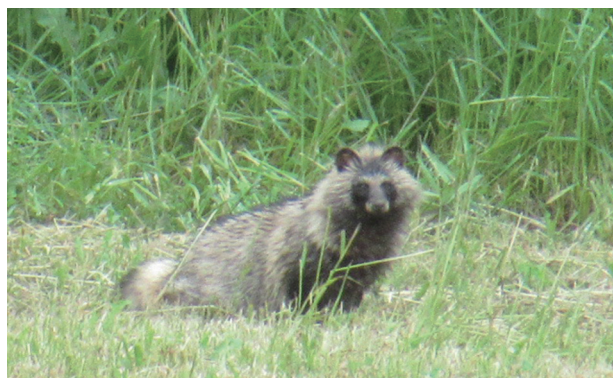
【随 筆】

コロナからタンチョウまで色々です

住 吉 尚
(釧路支部)

コロナウイルスによる外出自粛も解除となり、各種会合も開かれるようになりました。と言うことで、6月10日に釧路湿原シニア大学でのお話を頼まれ、出かけてきました。お話の内容は「ウイルスとワクチン」とし、動物種が違うと思えない結果を産むのだと言うことをお話しました。

釧路市動物園は昭和50年に開園しました。翌年には日本で初めてレッサーパンダの繁殖に成功しました。その後、日本中の動物園でレッサーパンダの飼育がブームになりました。ところがこの時、レッサーパンダが犬ジステンパーに感染し発症するとのニュースがヨーロッパから入ったので、全国各地の動物園で対応をすることになったのです。京都の動物園では飼育していた4頭のレッサーパンダ全てに犬ジステンパーワクチンを投与したところ、全てがジステンパーを発症して死亡しました。このニュースを聞いて全国の動物園ではワクチンメーカーに不活化ワクチンを作るよう求めました。人体用でもない、家畜でもない動物用ワクチンの開発は比較的簡単にできるのですね。でもワクチンの効果については使う側が検証するしかありません。早速この不活化ワクチンを全国の動物園で使ったのですが、先行して使用した動物園から私のところに電話が入り、「抗体価が上がらないので感染を予防できない！」とのこと。間隔を空けて3回接種しても予定の抗体価までは上がらないとのこと。この電話で私はワクチンによる予防を諦め、犬と接触しないようにしなければ！と思っていました。そんな中です。動物園に盲導犬が入ることに。私が犬は事務所で預かる！人には職員が付く！と提案したのですが、盲導犬の所有者は大変怒って、「動物園の獣医師が盲導犬を拒否するのか！私の犬はワクチンも接種しているのに！」私は「そのワクチンによって発症する動物がいるのですよ！」と言いましたが納得はしてくれなかったようでした。これは動物園の動物の健康をどう守るか！と言うことに神経質になっていた時の対応で、犬が園内を歩くだけで囲いの中の動物が感染する確率は大変低いものですから、こんなに神経質にならなくても良かったか



タヌキは犬と同じで、ジステンパーを発症します

も。なんて事件を思い出しました。と言うお話でした。でも動物園の動物にとって飼い犬や猫は脅威ですから、できるだけ連れて行かないことが大事です。ちなみにクマは犬ジステンパーに感染しウイルスを排泄しますが、発症はしません。そしてこのウイルスが犬に感染すると発症するようです。もちろんですが、ワクチン接種されていなければの話ですがね。タヌキやキツネは犬と同じでしょう。新型コロナウイルスも犬と猫では感染に違いがあるとか、ベルギーでしたかミンクから人に感染したので全頭処分したとのニュースもありましたね。

釧路は6月23日に突然真夏になりました。青空、強い日差し、セミの声。朝、まだ空は雲っていましたが、近所のエゾノコリンゴの木にたくさんの白い蝶が絡まるように飛び回っていました。おー、エゾシロチョウだ！毎年この時期になるとたくさんのエゾシロチョウが飛び回ります。エゾシロチョウはモンシロチョウより一回り大きく、翅脈と言いますが羽根にある筋のところだけが黒く、あとは模様が何もない蝶々です。この蝶は北海道ではどこにでも普通にいます。でも日本にはよく似た蝶がもう1種類いて、本州の中部の高原地帯にだけ住んでいます。こちらは初夏の高原を代表する蝶で、蝶マニアでない人にも人気のある蝶で、わざわざ見に行く人もいますのだとか。エゾシロチョウは、エゾノコリンゴやヒメリンゴなどのバラ科の植物が食草です。春に若葉が出てくるとエゾシロチョウの幼虫は群れになって若葉を食べるので、枝が次々と丸坊主になっていきます。こうして十分幼虫が成長すると一斉にサナギになります。枝にきれいな列を作ってサナギになるのも面白いものです。この幼虫の大群が一斉に蝶になるのですから、蝶が木に群がるように見えます。毎年同じ木に群がりますが、蝶は6月中に羽化してしまいますから、木の方はこの後に葉が出たりするので枯れることはないようです。私がいつも見ている木では、今年の蝶の数は近年になく



エゾノコリゴに群れるエゾシロチョウ

多いようです。サナギはまだたくさんあって、次々と羽化するのですが、羽化が遅い個体ほど寄生蜂に寄生されている割合が多く、サナギの数の割には羽化数が少なくなります。この蝶の幼虫に寄生する寄生蜂にはたくさんの種類があるのだとか。もちろんですが、蝶の体中で幼虫が成長するのですから、寄生蜂は大変小さいものです。この蜂の幼虫は蝶の幼虫の体中を食べて生長するのですが、蝶の幼虫が死なないように直接生死にかかわることを避けて食べるようで、外見からは分からないほど普通のサナギになっているのです。何時まで経っても蝶にならない！と思っているとサナギに穴が開き、寄生蜂が出てくる、ということになります。でもこの寄生蜂の仲間の食物環は大変複雑で、この寄生蜂の幼虫に寄生する寄生蜂までいるということですから。サナギから出てきた寄生蜂は蝶の幼虫を食べたのか？寄生蜂の幼虫を食べたのか？分かりませんね。私には全く見分けられません、寄生蜂に寄生する寄生蜂はずいぶん小さな蜂なのでしょうね。私の友人はこのエゾシロチョウのサナギから何種類もの寄生蜂が出てきた！と言っていましたから、この寄生蜂の世界も大変面白い世界なんだと思いました。ともあれ、庭木にたくさんの蝶が発生したら、面白いものも手だと思いますがね。

さて季節はタンチョウのバンディング作業をする時期になりました。初日は6月27日の土曜日です。タンチョウのヒナは孵化後約2カ月かけて生長し、やっと飛べるようになります。この飛べないヒナを捕まえ足輪を付けるのですが、なるべく大きなヒナを捕まえましょう！ということですから簡単ではありません。飛べないとは言え、長い足で草原を走り、軽い体重と長い足指があるので湿地でも埋まることはありません。一方の人間の側は、胴付き長靴を履き、双眼鏡や無線機をぶら下げて走るのですから大変です。しかも体重があるので湿地では一步一步足が埋まりますよね。草に足をとられても、溝には

まっても、頑張って走ります。私の大雑把な感じでは、狙ったヒナが獲れる確率は3割程度でしょうか。とは言え今年もがんばります。毎年のことですが、今年も十勝地方から始めます。9時に池田駅集合です。この日は札幌や富良野、遠くは千葉県から駆けつけた人もいて、18人もの捕獲隊ができました。天候は曇りで時々小雨です。最初は集合場所の北部、利別川沿いの農家にいるヒナ2羽連れがターゲットです。築堤の裏側に捕獲班を入れ、私たちは農家から築堤にヒナを追いつく係です。ヒナは大豆畑を超え、予想した通りに築堤を越え見えなくなりました。でもヒナ捕獲！のコールがいつまでも聞こえません。何が起きているのでしょうか？どうも捕獲隊が予想していた場所は少しずれていて、ヒナ達は川沿いの深い藪の中へと消えてしまったとか。追い出し隊に見れば理想的な追い出しだと思ったのですが見事な失敗でした。残念！

次は幕別町です。ここでは紆余曲折があったものの全員の努力の甲斐があって、見事にヒナ2羽を捕獲し、無事足輪を付けて放鳥しました。やったぜ！さて昼食です。小雨の中ですから十勝川河川事務所の施設を使わせてもらい、無事室内での昼食となりました。食後はまた池田町に戻ります。最初のターゲットと同じ農家付きのタンチョウで、この家族もヒナ2羽連れでした。ここも畑の向こうには築堤があるのですが、ここは築堤を越えるともう深い藪で、その先は沼ですから築堤上までの間で捕獲しなければなりません。畑はジャガイモでした。畑の中は入れません。1羽は畑の中を駆け抜けてしまいました。もう1羽ですが、こちらは築堤の畑側のヤブに隠れているようです。全員でヤブの搜索を始めると間もなく「ヒナ発見！」そして「捕獲！」のコールです。こうして今年の初日は3羽のヒナに足輪を付けて放すことができました。昨年の十勝では2日間で2羽でしたから、今年は上々の滑り出しと言えます。3カ所6羽のターゲットで捕獲数3羽ですから、捕獲確率5割です。そして今年は2羽連れが多いような気がしました。天候があまりよくなく時々小雨が降る中でした。でも十勝が良い天気だと、気温が上がると汗まみれになりますから、我々には「良い天気だったよー！」と言う感じです。日曜日にも十勝でのタンチョウのバンディングです。この日は5羽ものタンチョウのヒナに足輪を付けることができ上々でした。そしてこの日も曇り時々小雨模様でした。

このバンディングのために千葉県からわざわざやってきたわが友は、次の月曜日から「蝶々採りをやりたい」と。「まずは何？」と私。「エゾシロチョウだ！」それな



今日の3羽目です

らうちの裏に沢山いますから、はいここ！早速捕虫網を出し採集です。6頭採ったところで、もうエゾシロチョウは充分だ！次はセセリチョウの仲間が欲しいとか。それではと走りだしました。ただ蝶々採りだけではもったいないので、タンチョウのヒナ探しを兼ね、厚床周辺まで走りました。でも肝心の蝶々がさっぱり見当たりません。夕方まで頑張って目的の蝶を1頭だけでしたが採ったとか。さて帰路に。でもこの時期はまだまだ日が高いので「ちょっとラッコでも見てから帰ろうか！」と提案。もちろんOKです。ハンドルを切って、霧多布岬に。駐車場で車を止めるとすぐそこに何人もの人が。ラッコはすぐ下の海で昼寝中でした。子供が1頭、成獣と思われる個体が3頭、子供は1頭の成獣にいつも抱かれていますから、抱いているのは雌親でしょう。海面から頭と足を出して腹向けになって浮いた状態です。寝ているようです。何とものんびりしたものです。あくせく走り回る人間どもと違い、波に揺られてのんびり昼寝をしているラッコを見るのも気が休まって何とも良いものです。蝶々採り2日目は雨で断念。それではと、タンチョウ探しをすることに。2家族ヒナ4羽を見つけて、午後友人を空港まで送り届けて終了。そして翌日の水曜日はまたまたバンディング作業です。疲れがさっぱり抜けません。ヨタヨタしながらの参加です。



昼寝中のラッコ

今日は道の駅恋間館に集合。天候は晴れです。十勝での2日間は小雨模様でしたので、あまり汗をかくことなく作業には良い日和でしたが、今年は釧路地方で汗をかくと言う状態のようです。午前中はだめ。暑さもあり少し早い昼食をとりながらの休息です。そこで地元民の情報を得て走り出しました。話に聞いた場所にヒナ2羽がいました。今日は平日で参加者は8人だけ。四方を囲むには2人ずつしかいません。広い草地をそれでも囲んだのですが、1羽を捕まえたもののもう1羽は見失いました。残念。さて今度は朝一番に行ったターゲットに再挑戦です。私の車は皆より少し遅れて到着しました。すると無線からは、「良い場所にいる！」「朝の作戦通りに展開せよ！」とのこと。私は鳥も満足に見ずに走り出しました。1羽目は早々に「ゲット！」のコールが。すると私の目の前のヨシ原を誰かがバリバリと大きな音を立てて歩いています。てっきりヒナを探しているメンバーだと思っていたら、ひょっこり出てきたのは人ではなくタンチョウのヒナでした。「おーいヒナがいたぞー！」叫びます。元気な仲間が追いかけます。深いヨシの中で何とか抑え込みました。今日の3羽目ゲットです。こうして汗まみれの日が終わりました。



こんな大きなヒナも

(都々逸)

消毒・除菌と 清掃励み 「美しい日本」 つくりましょ	ステーキ 焼き鳥 豚丼も 三密畜舎の おかげです	雑草を 愛で得ぬ心に 花咲かず 雑菌を 許せぬ園に 疫宿る	夜のスキの あなたと三密 コロナるホテルは 蜜の味
-------------------------------------	--------------------------------------	--	------------------------------------

偽憂乳ぢい (帯広市)